

令和 3 年度「長寿科学研究開発事業」における事後評価について

令和 4 年 6 月

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課

事後評価は、各課題の研究開発の実施状況、研究開発成果等を明らかにし、今後の研究開発成果等の展開及び事業等の運営の改善に資することを目的として実施します。

長寿科学研究開発事業では、本事業における事後評価の評価項目に沿って、課題評価委員会において、書面・ヒアリングによる事後評価を実施しました。

●総評

本研究事業は、高齢者が老いや高齢者特有の疾患または病態等に罹患しながらも、その人らしく生活を送るために必要な医療や適切な介護の提供に資する研究開発を推進しています。今後、医療や介護人材の確保が更に難しくなり労働力としての制約が強まる中で、限られた人材・資源によって効率的かつ質が担保された医療・介護を提供して高齢者の生活を支援するため、科学的根拠に裏付けられた技術開発や費用対効果を踏まえた新たな提供体制の提案等が必要とされています。

本研究事業では、制度を円滑に遂行するための政策的な課題の解決に繋がる研究と、老年医学領域における研究を基礎として高齢者の生活を包括的に支援する基盤整備を推進する観点から研究を進めています。

評価委員会では令和 3 年度で終了する 3 課題を対象としました。

2 つの課題において計画を超える進捗が得られたことが評価され、残る 1 課題については、概ね計画通りに進捗していたとの評価を得ました。

「保険レセプトデータを用いた死に至るまでの生活活動能力の経時的変化の類型化とその決定要因の解明」は、医療保険と介護保険のレセプトを結合したデータから、終末期、そして死に至るトラジェクトリパターンを年齢階層別に描出し、その要因を抽出したことが高く評価されました。本知見を活かした社会実装が期待されます。

「呼吸不全に対する在宅緩和医療の指針に関する研究」は、呼吸不全の在宅緩和ケア技術の評価、および意思決定支援プロセス指標作成において、具体的な緩和ケア指針がまとめられ、アドバンス・ケア・プランニング支援ガイドまで含めて完成されたことは高く評価されました。

「高齢腎不全患者に対する腎代替療法の開始/見合わせの意思決定プロセスと最適な緩和医療・ケアの構築」については、高齢腎不全患者に対する最適な緩和医療の在り方を調査検討し、高齢腎不全患者のための保存的腎臓療法(CKM)のガイドを作成したことが評価されました。社会実装の推進にも期待が寄せられます。

●対象 3 課題

ビッグデータを用いた高齢者の死に至る経時的変化の類型化に関する研究			
研究開発課題名	研究開発 代表者	所属機関	役職
保険レセプトデータを用いた死に至るまでの生活活動能力の経時的変化の類型化とその決定要因の解明	近藤 尚己	京都大学	教授
非がん高齢者の在宅における緩和医療の指針に関する研究			
研究開発課題名	研究開発 代表者	所属機関	役職
呼吸不全に対する在宅緩和医療の指針に関する研究	三浦 久幸	国立長寿医療 研究センター	部長
高齢腎不全患者に対する腎代替療法の開始/見合わせの意思決定プロセスと最適な緩和医療・ケアの構築	柏原 直樹	川崎医科大学	教授

●評価のスケジュール

書面審査実施期間	令和4年4月14日(木)～令和4年5月9日(月)
面接（ヒアリング審査）審査	令和4年5月19日（木）

●課題評価委員 名簿

	氏名	所属・職名
評価委員	石井 恭正	東海大学 医学部 准教授
評価委員	後藤 温	横浜市立大学 学術院医学群 教授
評価委員	鈴木 みずえ	浜松医科大学 臨床看護学講座 教授
評価委員	田高 悦子	北海道大学 大学院保健科学研究院 教授
評価委員	玉腰 暁子	北海道大学 大学院医学研究院 教授
○副委員長	徳田 治彦	国立長寿医療研究センター 臨床検査部 部長
評価委員	永井 久美子	杏林大学 医学部高齢医学教室
◎委員長	中村 利孝	東都三軒茶屋リハビリテーション病院 院長

評価委員	中山 健夫	京都大学 大学院医学研究科 教授
------	-------	------------------

PS・PO 名簿

	氏名	所属・職名
PS	飯島 節	筑波大学 名誉教授
PO	數井 裕光	高知大学 医学部 教授

●評価項目

- ①研究開発達成状況
- ②研究開発成果
- ③実施体制
- ④今後の見通し
- ⑤事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目
- ⑥総合評価

以上